



科研費ニュース

令和6（2024）年度東京未来大学の科研費申請状況は以下の通りです。

		令和6年度						令和5年度					
		こども (保育・教育)		こども (心理)		モチベーション 行動科学部		こども (保育・教育)		こども (心理)		モチベーション 行動科学部	
基盤研究(A)	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	海外学術調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究(B)	一般	0	0	1	16,053	1	20,000	0	0	1	19,999	0	0
	海外学術調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究(C)	一般	3	11,439	3	14,194	3	14,932	8	33,058	1	4,980	2	8,089
	特設分野研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
挑戦的研究	開拓	0	0	1	19,966	0	0	0	0	0	0	0	0
	萌芽	0	0	1	2,558	0	0	0	0	1	5,000	0	0
若手研究		0	0	0	0	0	0	0	0	1	5,000	0	0
ひらめき☆ときめき サイエンス		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
件数 / 金額		3	11,439	6	52,771	4	34,932	8	33,058	4	34,979	2	8,089
合計件数		13 件						14 件					
合計金額		99,142 (千円)						76,126 (千円)					

令和6（2024）年度、研究種目別の申請件数を見ると、基礎研究（C）が最も多く、次いで基礎研究（B）、挑戦的研究の順になっています。令和5（2023）年度と比較すると、合計件数は1件減少していますが、申請の合計金額は増加傾向にあります。

近年は本学からの申請の採択率が高まり、令和2（2020）年度から令和5年（2023）年度にかけては多くの採択がありました（詳細は「研究推進ニュースレターVol. 18」をご参照ください）。申請あつての採択数の増加ですので、次年度は申請件数が増えることを期待したいです。

ご自身の研究に合った種目を検討し、申請してください。各研究種目の目的・内容の詳細は、日本学術振興会ウェブサイト内の科学研究費助成事業（科研費）の制度概要、「研究種目・概要」ページをご覧ください。なお、公募開始日・提出期限は研究種目により異なりますので、ご注意ください。

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/01_shumoku/index.html

日本学術振興会ウェブサイト内 > 科学研究費助成事業（科研費）> 制度概要 > 研究種目・概要

特別企画

特別企画として、「令和4年度 國學院大學人間開発学会研究奨励賞」を受賞された藤後悦子先生に、研究内容についてお話を伺いました。

Q1：今回受賞された研究の内容について教えてください。

論文のテーマは、「外国人幼児の障害の早期発見—担当保育者による障害の徴候への気づきに注目して—」です。今回は分担者として受賞させていただきました。筑波大学時代の仲間である野澤純子先生（國學院大學）と石田祥代先生（千葉大学）と一緒に科研費の一環として研究しています。

近年、日本の保育現場では、外国人幼児が増えているのですが、日本語に慣れていないからということで、発達の課題を見過ごされてしまったり、逆に能力よりも低く発達状況を評価されてしまったりということが生じています。適切な支援および適切な就学先を検討するためには、アセスメントが必要になります。そのアセスメントツールについて開発するために、まずは保育現場の先生方が外国人幼児の障害について、どの時点で、どのような視点で気づいているのかという現状を把握しながら、アセスメントの項目を分類していきました。



Q2：その研究テーマに至った経緯を教えてください。

野澤先生を代表として、野澤・藤後・石田の3人で科研を取得したのは2回目です。スタートは野澤先生が東京未来大学の非常勤をされていた時に、研究室に遊びに来てくれて、話が盛り上がったことからスタートしました。野澤先生は巡回相談や知的・重複・発達障害児に対する超早期段階における支援を行われており、博士論文も巡回相談の内容で書かれています。藤後は保育園での臨床を20年以上行っており、前回の野澤先生筆頭の科研では、一緒に保育園でデータをとったり、保育者研修を実施したりしました。石田先生は、北欧の特別支援について様々な研究をなさっており、いつも新鮮な視点をくださいます。

私たちの中では、多様な子どもやインクルーシブなどがキーワードとなるのですが、その多様な子どもの中に、外国人幼児が含まれています。外国人幼児に適切な支援を提供するためには、重複障害の見極めが重要であり、その手立てとして保育現場で使えるものを提供したいという思いに至りました。また通訳の充実、子ども参画の支援、妊娠からの継続した支援など北欧に学ぶべきことも多く、随時北欧の先駆的な事例も参考にしながら研究を展開しています。3人とも多忙なので、オンラインミーティングをフル活用しています。仲良く研究させていただいていますが、科研に関する論文を年に1本は各自執筆というのが暗黙のルールです（苦笑）。

Q3：今後の展望などについてお聞かせ下さい。

多様な子ども達がいて多様な家庭があるからこそ、世の中面白いし発展性があるのだと思います。しかしながら一方で多様性は生きづらさにつながる面も持ち合わせます。生きづらさがあるのであれば、社会で支えていければと思っています。このような考えのもと、私たちは「社会的子育ての実現—保育カウンセリングと保育ソーシャルワークの融合」（ナカニシヤ出版）を執筆し、2023年度こども環境学会の著作・論文賞を受賞しました。勿論今回の研究の内容も本書には含まれています。このように、研究したものをしっかりと社会に還元して、少しでも現場の方々に役に立てただけなのが私たちの願いです。今回の研究でいえば、外国人幼児のアセスメントツールを開発して、保育現場で使用してもらい、適切な就学支援や就学後の支援が充実するように活用していただきたいと願っています。このプロセスの中で、次につながる研究課題が生まれてくるのだと思います。

藤後悦子先生、ご協力ありがとうございました！

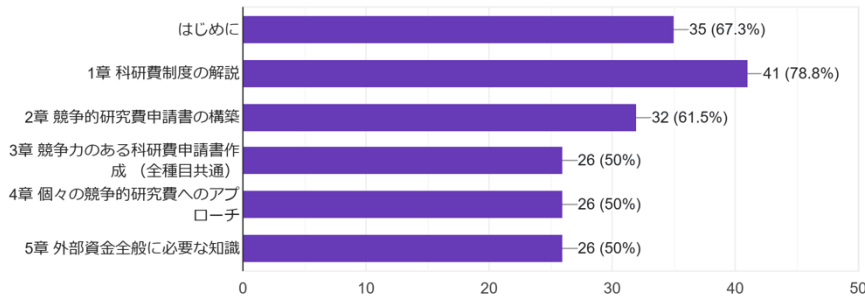
研究推進委員会 動画研修のアンケート結果

研究推進委員会では、令和5（2023）年10月25日～令和6（2024）年3月6日にかけて、動画教材を用いた研修を実施しました。合計52名の先生方から回答を得ました。ご協力ありがとうございました。以下に、一部の調査結果を掲載いたします。

どの研修動画を視聴しましたか？

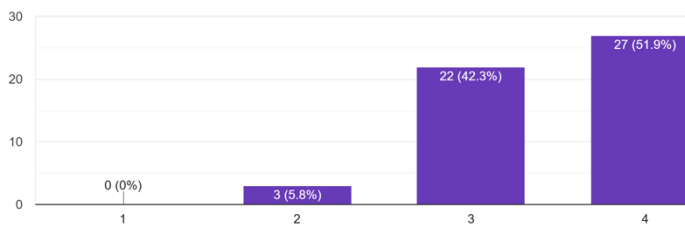
1つの章にある複数の動画のうち1つでも視聴していれば、その章を視聴したものと回答してください（複数回答可）

52件の回答



今年度の研修はいかがでしたか？

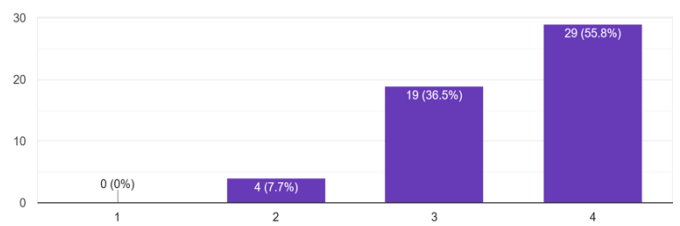
52件の回答



(1:満足していない ~ 4:満足した)

研修動画の内容に興味を持ちましたか？

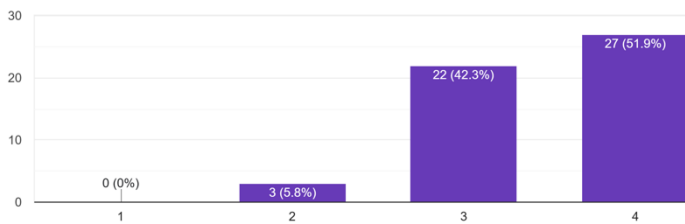
52件の回答



(1:興味を持たなかった ~ 4:興味を持った)

研修動画の内容は役に立ちましたか？

52件の回答



(1:役に立たなかった ~ 4:役にたった)

今回の動画講座の感想がありましたら、記入してください。
科研の基礎が分かり、これまで独自で書いていた点を改善することに繋がりたい。
大変なためになった。科研費を書く際にもう一回観たい。
申請書の書き方で疑問に思っていたことが解消されました。
外部資金獲得について基本的なことから丁寧に学ぶことができました。テーマ別に分かれており、時間を分けて効率的に見ることができたこともよかったです。
自分の研究の価値を外部の方へ向けて、説得力をもって発信していく指摘を改めて大切に感じた。
切実に、動画で使用されているスライドが欲しかった。

結果を見ると、今年度の研修に対して「やや満足した」、「満足した」と答えた割合が94.3%で、満足度が高かったことが分かりました。この理由として、今回の研修動画の内容に興味を持って頂けたこと（「やや興味を持った」、「興味を持った」の合計92.3%）と、内容が役に立ったと感じて頂けたこと（「やや役に立った」、「役に立った」の合計94.2%）があるようです。このような姿勢は自由記述からも読み取ることができました。例えば、「科研の基礎が分かり、これまで独自で書いていた点を改善することに繋がりたい」、「申請書の書き方で疑問に持っていたことが解消されました」といった意見がありました。また、今後の研修の方向性についての貴重なご意見もいただく事ができました。これからも可能な限り先生方のご要望にお応えできるよう、努力させていただきますので、引き続き研究推進委員会へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

令和5年度 東京未来大学特別研究助成研究発表会（成果報告会）

開催日：令和6（2024）年3月6日（水）
時 間：10時30分 角山剛学長挨拶
10時35分 発表，司会：小林寛子

令和6（2024）年3月6日（水）に，令和5（2023）年度東京未来大学特別研究助成研究発表会（成果報告会）が開催されました。午前10時30分，角山剛学長によるご挨拶に続いて発表が行われました。発表件数は，全6件でした。

以下に，今回ご発表いただいた先生方のお名前と申請課題（発表タイトル）を紹介いたします。また，この発表会における口頭発表以外の特別助成研究テーマや概要の一部を紹介いたします。

東京未来大学特別研究助成研究発表会 プログラム

氏 名	申請題目
鈴木 公啓	身体の装いの活用に関する検討
藤後 悦子	「いじめ」や「嫌がらせ」を含む大人の間関係の悩みについて
大橋 恵	潜在的態度に対して状況要因が与える影響
野中 俊介	ひきこもり機能的アセスメント評価尺度の信頼性と妥当性の検討
白石 雅紀	日本におけるマイノリティ集団間の複合と相克に関する当事者団体からの聞き取り研究
紙本 裕一	日・南ア・アメリカ・中国による比較を通じた日本の算数教科書の固有性についての分析

発表風景（B327 教室）



その他の特別研究助成 テーマおよび概要（一部紹介）

※ご報告いただいた原文を掲載しております

氏名	申請題目
井梅 由美子 大橋 恵 藤後 悦子	思春期の親子関係に関する調査―「受験」をめぐる親子の葛藤に焦点をあてて
	思春期は子どもの成長と共に親子関係が変化し、葛藤も生じやすい時期である。中学生の子を持つ母親を対象にオンライン調査を実施し、この時期の親子関係と母親の子育てに関する悩みを検討した。
磯 友輝子 仲嶺 真	恋愛普及幻想および恋愛ポジティブ幻想は現在においても示されるか
	本研究では、恋愛普及幻想および恋愛ポジティブ幻想が、恋愛することへの規範が弱まっている現代においても確認されるかを調査した。その結果、両幻想はその強度が弱くなってはいても消失していないことが示された。
大内 善広	父親の育児動機づけ尺度の作成
	未就学児を育てている700名の父親のデータに対してカテゴリカル因子分析を行い、育児動機づけ尺度を開発した。ペアレンティング調整尺度、育児効力感との相関による妥当性を検討し、尺度の妥当性が確認された。
大橋 恵	潜在的態度に対して状況要因が与える影響
	状況を通して安定しているように語られてきた潜在的態度が実際にはかなり状況要因の影響を受けるのではないかと疑問を持ち、スポーツ・運動に対する態度を材料に実験的に検討した。その結果、一部条件で影響が見られた。
金塚 基 岩崎 智史	高等学校における応援部の活動役割を通じた教育機能の展開に関する研究
	高等学校応援部の成立経緯、活動状況・内容、その他の行事等において披露される活動の特徴に関する考察を通じて、それらが学校教育において果たしてきた役割について明らかにする。
紙本 裕一	日・南ア・アメリカ・中国による比較を通じた日本の算数教科書の固有性についての分析
	日本、南アフリカ、アメリカ、中国の算数教科書について比較分析を行った。分析項目（ふきだし、索引、例題、説明文、対話的構成）を設定し比較を行ったところ、日本についてのみ全ての項目について登場していた。
小林 久美 中和 渚 他	日本の高等学校家庭科と数学の教科横断的な授業の開発
	本研究は、STEM教育に新たな側面をもたらす学際的なアプローチの観点から、授業を開発・実施し、その実現可能性を評価することを目的とし、日本の10年生を対象に、数学と家庭科を統合した4つの授業を考案・実施した。
小林 祐一	総合的な学習の時間におけるSDGsカリキュラムに関する考察 ～社会科副読本の分析を通して～
	総合的な学習の時間におけるSDGsの可能性について、各地域の地域教材である社会科副読本の分析を通して研究を進めた。今年度は京都市を实地調査し、まちづくりの課題と教育の展望を把握することができた。
島内 晶	高齢者の記憶認識と精神的健康との関連について
	本研究は、記憶の失敗への指摘が「メタ記憶」や「精神的健康」に与える影響について検討した。「さっきも同じ話をしていた」との指摘は、中年、高齢群の失敗感を高め、指摘後の反応は年代により異なる事が示された。
白石 雅紀 戸田 有一	日本におけるマイノリティ集団間の複合と相克に関する当事者団体からの聞き取り研究
	マイノリティ集団間の複合（インターセクショナルリティ）と相克の実際と課題を文献と当事者へのインタビュー調査から明らかにしようと試みています。今年度は先行研究のレビューと予備調査を主に行いました。
杉本 雅彦	高等学校応援団の発声におけるフォルマントの感情の判別に関する研究
	女子生徒と男子生徒による応援活動の発声技法の違い要因を分析した。ケプストグラム分析を使用してフォルマント周波数を求め、特に第1倍音に注目し、女子生徒と男子生徒との発声音の特徴の違いを分析した。
鈴木 哲也	学校飼育動物における教員労務の問題
	学校飼育動物に関して、お昼休みに世話をすること、放課後に世話をすること、土日に世話をすることを取り上げ、どれも労働時間の可能性があること、また土日に持ち帰り飼育の緊急連絡先が教員であれば待機時

	間として労働時間になる可能性があることなどを検討した。
高橋 純一	小学校における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現に関する研究
	本研究は、富山県内の小学校を事例にして、個別最適な学びと協働的な学びの一体的実現に向けた管理職のリーダーシップに関する研究である。校内研修改革に焦点を当てて、学校現場に示唆を与える要素を明らかにする。
藤後 悦子 大橋 恵 井梅 由美子	「いじめ」や「嫌がらせ」を含む大人の間関係の悩みについて
	社会人以降の間関係のトラブルについて、実態調査およびインタビュー調査を実施した。その結果、職場トラブルが最も多かったものの、職場以外のコミュニティでもトラブルは一定数発生しており、それらから成人期の孤独感と関連が認められた。
中澤 純一	多文化教育における「多様性の尊重」と「社会正義の実現」を視点とした開発的・実践的研究
	「多様性の尊重」及び「社会正義の実現」を視点とし、中学校社会科・高等学校社会系教科及び総合的な学習（探究）の時間を中心に、多文化教育の単元を開発し、これまでの実践をもとに開発した単元を再構築した。
野澤 義隆	家庭訪問型子育て支援事業における対象と支援内容の明確化に関する研究
	本研究は、日本の家庭訪問型子育て支援事業の対象と支援内容を検討することを目的とした。全国の子育て支援事業を行う民間事業所に対して調査を行った結果や課題等を整理した。
野中 俊介 境泉 洋 武田 知也	ひきこもり機能的アセスメント評価尺度の信頼性と妥当性の検討
	ひきこもり者 243 名にオンライン調査を実施した。そのうち、50 名に再検査信頼性を確認するために2週間後に2度目の調査を行った。ひきこもり機能を測定する尺度が作成され、信頼性と妥当性が確認された。
橋元 知子	初等英語教育のアセスメント：初等英語教育補助員の視点から
	本研究では、初等英語教育補助員の視点から初等英語教育についてアセスメントを行ってもらい、評価できる点と課題点を明らかにした。結果、今後この分野がより一層発展するための示唆を得ることができた。
埴田 健司	性的マイノリティに対する偏見をもたらす心的メカニズム
	研究1では、感染症脅威が顕現的な状況では、感染への嫌悪が同性愛者への偏見を強めることが示された。研究2では、同性愛や両性愛をカミングアウトされると、当事者に対して否定的になりやすいことが示された。
真家 英俊	小学校における身体活動量の増加を促す保健学習の検討
	小学校3年生および5年生を対象に、体育科保健領域の授業において身体活動量の増加を促す保健学習を実施し、授業前後1ヶ月間における身体活動量や栄養摂取状況、生活習慣の変化について検討した。
三浦 卓己	地域ブランド形成における幸福価値要因の効果に関する一考察
	菅野・若林（2008）の「地域ブランド資産一価値評価モデル」を基本枠組みに用いて、地域ブランド資産が価値を介して地域住民の幸福度にどのような影響を与えるのかについての実証分析を行った。
山崎 善弘	東アジア文明圏の中の日本近世史—仁政・徳治の政道論を素材として—
	東アジア文明圏の主要な共通項として政治文化が挙げられるが、本研究では、その中でも仁政・徳治の政道論に視点を据え、比較文明的な視座から日本近世の国家と社会のあり方とその特徴に迫った。
横地 早和子	芸術創作プロセスの解明
	作品制作過程の記録収集、追加資料を収集、追加インタビュー等を実施し、データ分析等を行い、その成果を論文やシンポジウムで発表した。

編集後記

令和5年度東京未来大学特別研究助成研究発表会は、研究分野・領域を超えての合同開催となりました。活発な意見交換が行われ、発表者、参加者ともに充実した発表会となりました。今年度も研究推進委員会の活動にご協力いただきまして、まことにありがとうございました。委員一同心より御礼申し上げます。最新号、どうぞご味読のほどよろしくお願いたします。

研究推進委員 石橋里美